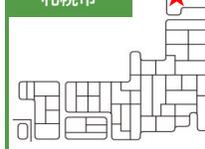


『戦力になる農福連携』をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。冬場には荒廃農地を利用して菌床椎茸栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

中間支援組織

北海道札幌市



基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:ノウフクJAS(R6年)

概要

主力商品
(農作物)菌床椎茸

特徴的な取組
林福連携、ユニバーサル農園、中間支援

体制図

統括管理:合同会社カレイドスコープ(農福連携コーディネーター)
実施主体:特定非営利活動法人楽園プロジェクト(就労B、グループホーム、相談室)
連携自治体:北海道勇払郡安平町
農福連携実施地域:新篠津村、当別町、安平町、千歳市、長沼町、栗山町 他
主な連携先:【農業者】ダイナックス、またたびファーム、大塚ファーム 他、【企業】パターンプランニング株式会社(北海道TEA)、百姓屋(加工品製造) 他

住所:北海道札幌市白石区栄通11丁目1-33

TEL:011-556-8676

Mail:Kaleidoscope.jp@outlook.jp

URL:https://rakuenproject.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ

H31年

前身法人時代に人手不足の農家との出会いを契機に、有料の民間中間支援組織として農福連携のマッチング支援を行う。その経験を活かして自社チームを設立し、取組を開始。

取組

人を耕す

- 24時間365日作業可能な体制を構築し、年間約30の契約農家により安定した作業受託を実現。就労Bの利用者と利用者からステップアップした職員で結成した「チームグリーン」は少数精鋭で運営され、月額平均工賃9.5万円以上を達成。
- 就労移行を積極的に推進し、他社移行や自社でのパート・正社員雇用を実現。

地域を耕す

- 町所有の空き家の交流センターを借用し、障害者福祉のインフラ強化のための相談窓口としてNPO法人いんくるらぼを設立。街全体で農福連携への理解を促進。
- 冬の仕事創出のため、荒廃農地を借用してR4年より菌床椎茸栽培を開始し、R5にはノウフクJASを取得。冬季の受け入れ先がない養護学校生徒の実習受け入れに貢献。
- 農作業だけでなく、福祉除雪や住宅清掃などの地域の困りごとへも対応。

未来を耕す

- 農福連携技術支援者に資格手当を支給し、自社だけでなく農福連携全体が盛り上がるようコーディネーター育成に尽力。
- R3より荒廃農地をユニバーサル農園として整備し、収穫体験や直売所、視察拠点として活用。地元社協や農家と連携し、高工賃実現や若年農業者育成などを推進。

平均工賃月額

50,000円(R4)
→100,000円(R6)

農作業チーム

3人(R4)
→8人(R6)

菌床椎茸出荷額

100万円(R5)
→200万円(R6)

農地面積

0a(R4)
→2a(R6)

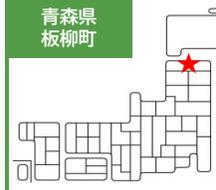
成果

- 全国的にも珍しい完全民間の有料中間支援組織としての経験をもとに、農福連携を活用した町おこしや高工賃を実現。ノウフクJAS取得などが注目され、NHKや北海道ウェブ媒体『くらしごと』などで取材対応も実施。
- 農家目線と福祉目線の両立を重視し、高工賃の実現やコーディネートを推進。将来的には若年農業者に畑の管理や生産・出荷までを任せる計画。
- 特別支援学校からの卒業生が多く在籍しておりR6は5名、R7は2名を新たに採用。移行実績やテレビ出演などから就労希望者が増加。

耕作放棄地を活用し、AIによる自動灌水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノウフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

福祉事業所

青森県
板柳町



基本情報

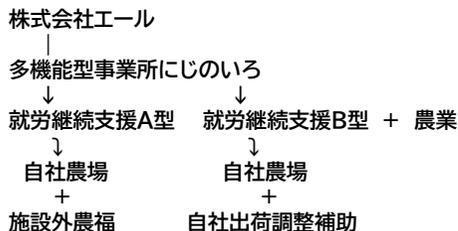
設立:H27年 / 農福連携取組開始:H29年
 取得認証等:認定農業者(R6年)、ノウフクJAS(R4年)
 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R1~R2年)
 主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(第10回/東北)

概要

主力商品
 (農作物)ピーマン、シャインマスカット、メロン 等

特徴的な取組
 スマート農業

体制図



住所: 青森県北津軽郡板柳町大字横沢字東宮元12-12
 TEL: 0172-55-6682
 Mail: info@nijino-iro.jp
 URL: https://nijino-iro.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

H29年

JAからのピーマン栽培支援依頼を機に農業へ参入。難しい水と肥料の供給をAI自動灌水・施肥システムの導入で対応し、自社栽培を開始。農家との連携も拡大中。

取組

地域を耕す

- JAから営農組合のニンニクの芽出し作業を依頼され、高評価を獲得。新たなリング栽培の作業依頼につなげる。弘前市からも農家を紹介され、契約を結ぶなど地域との連携の場を拡大。
- 青果市場と連携し、耕作放棄地を活用した里芋の実証栽培に挑戦。
- 地域のノウフクマルシェに参加し、ノウフクJAS認証のピーマンやシャインマスカットを販売。地域との交流を深めた。

未来を耕す

- 耕作放棄地を活用し、全自動灌水・施肥システム「ゼロアグリ」を導入したシャインマスカット、メロン栽培を開始。作業の効率化と品質向上による収益増を実現。また、AI管理によりメロンのネットが均一に仕上がるとの評価を得て、県内農家や大手企業からも注目を集める。
- ノウフクJAS認証の青森県産ピーマンとして秋田県スーパーに出荷。信頼性と話題性で売り上げも良く、単価アップにより収益向上が実現。

成果

平均賃金月額	農作業就労数	売上高	農地面積
67,000円(R2) →85,000円(R6)	2人(R2) →9人(R6)	90万円(R2) →980万円(R6)	0.3a(R2) →2.8a(R6)

- スタッフが農家へ実習に赴き、障害特性に応じたワーキングメモリーを意識しながら、作業の細分化とシミュレーションを実施。利用者の自信向上と、農家が納得できる作業提供を実現。
- 作業を細分化し、できることから着実に取り組むことで、障害者は自身が向上し、障害者の受入に抵抗のあった農家や地域の理解も進んだ。
- 特別支援学校生徒の見学体験会を実施し、ピーマンの収穫や出荷調整等体験を通して交流。利用者にとっても、教えるという新たな経験を積んだことで、成長の機会となった。

特別支援学校と連携して地元狭山茶の栽培管理等や、地鶏の飼育から商品開発・販売までの産業化に取り組むことで双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

高等学校

埼玉県川越市



基本情報

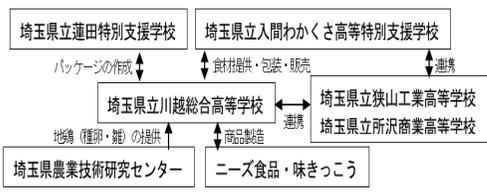
設立:T9年 / 農福連携取組開始:R5年

概要

主力商品
(農作物)地鶏(タマシャモ)、米、にんじん
(加工品)タマシャモカレー

特徴的な取組
スマート農業、6次産業化

体制図



住所:埼玉県川越市小仙波町5丁目14番地
TEL:049-222-4148
Mail:r224148@pref.saitama.lg.jp
URL:https://kawagoesogo-h.spec.ed.jp/

きっかけ

R5年

地鶏商品の新たなパッケージデザインに障害者アートの活用が決まり、特別支援学校に協力を依頼したことがきっかけで、それぞれの得意分野を活かした協力体制・連携を構築。

取組

人を耕す

- 様々な作業工程の中で、双方の生徒の特性や得意分野等を知ることができた。
- 特別支援学校の生徒が描いた絵をパッケージデザインに使用することで、特別支援学校の生徒の活躍の機会となり、喜びと自信に繋がった。
- 双方の生徒が自ら育てた農畜産物が商品化され農業に対する意欲向上に貢献。

地域を耕す

- 地域特産のお茶を鶏の飼料に加えることで、鶏肉の風味や品質が向上したほか、紅茶の茶殻や廃棄される茶葉を再利用することで、食品ロスの削減にも繋がり、SDGsの達成に貢献。
- 高校生、特別支援学校の生徒、お茶生産者が連携し、合同での茶摘み体験や地域イベントでの生産物販売することで、地域のつながりが生まれ、障害者への理解を促進。
- 入間わかさ高等特別支援学校が運営するカフェで、川越総合高等学校の製造商品を提供。

未来を耕す

- 異校種交流やイベント参加を通し多様な人と関わることで、双方の生徒の進路選択に幅が広がり、将来のキャリアを考えるきっかけとなっている。
- 学校における農福連携の促進を目指し、特別支援学校との連携事例を外部に紹介。
- 地元狭山茶の栽培管理等を通して、特別支援学校・農業高校・工業高校・商業高校が連携している取組は珍しく、新聞やテレビなどの報道でも取り上げられている。

成果

農産物売上高	交流人口	—	—
44.9万円(R5) →87.8万円(R6)	10人(R5) →30人(R6)		

- 農業を通じた交流の中で、生徒の障害者に対する理解が深まり、お互い得意分野を活かし、協力し合う環境を整備。
- 本校生徒にも人間関係の構築が苦手な生徒も多く、はじめは戸惑っていたが、農業を通じた交流の中で、障害を持つ生徒と積極的に交流していく姿勢がみられた。
- パッケージの個包装作業を特別支援学校の生徒に担ってもらうことで、完成品の安定供給が可能となり、増産され販売数が向上。

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。より多様な人材が活躍できる環境が整備され、現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。

農林水産業経営体

神奈川県
三浦市



きっかけ

R2年

高齢化に伴う経営方針転換を考えた時期に特例子会社との縁があり、障害者社員の一途な働き方に感動し、企業と共同で人材育成を行い始めたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程を巧緻性と最多注意配分数を両輪とした難易度評価により階層的に分けており、現在の工程ができるようになったら次の難易度の工程にステップアップするルールを採用。
- 出荷調整所をユニバーサルデザイン化し、合理的配慮された休憩所やトイレも増築。交代制で休憩がとれるルールを徹底。

地域を耕す

- 特例子会社の障害者社員の成長とともに事業も拡大し、収益性並びに生産性が向上。
- 地域の農業技術や野菜を継承し、農福連携で三浦カブを始めとした三浦野菜を栽培することにより地域農林水産業の維持・発展に貢献。
- 若手地域農家の経営的な相談に乗り農福連携に取り組み各援農先の持続可能性向上に貢献。

未来を耕す

- 出荷調整所に数量カウントセンサーやオートメーションシステム等のスマート農業を導入。
- 荷調整作業で、日々大量に出てしまうカブの残渣を活かした循環農法を企業と共同研究開発。
- AI搭載のプロジェクトマッピングを導入し、カブの選別作業の難易度を下げることに成功。
- 休憩室に必要な農具を揃えておくことで、特例子会社の社員がほ場に直行直帰できる体制を整備し、障害者の自立を支援。

取組

成果

作業請負年間支払額	障害者数	農業売上高	農地面積
320万円(R2) →650万円(R6)	9人(R2) →17人(R6)	5,700万円(R2) →7,300万円(R6)	1.8ha(R2) →4.0ha(R6)

- 3年かけて弊社の下葉処理作業を習得し、6年目の現在は農家と変わらぬ精度と効率で作業ができるようになった。
- 企業の障害者社員が母校で講演を行い、農業の魅力を特別支援学校の後輩に広めている。
- 生産性の向上に伴い、賃金も向上。
- 障害者も安全に安心して働ける環境が整い、より多様な人材が活躍できる場になったことで、障害者と外国人労働者が同じ現場で働くことができるようになった。

基本情報

設立:R2年 / 農福連携取組開始:H30年
 取得認証等:認定農業者(R4年)、みどり認定(R6年)
 主な選定表彰:第53回日本農業賞(個人経営)神奈川県代表

概要

主力商品
(農作物)三浦かぶ、スイカ、かぼちゃ等

特徴的な取組
スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

パーソルダイバース株式会社
よこすか・みうら岬工房
→株式会社PEEKABOO
(企業参入型ノウフク援農モデル)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

住所:神奈川県三浦市南下浦町菊名25-3

TEL:046-888-0875

Mail:info@miurakabu.com

URL:https://peekaboo-miura.com/

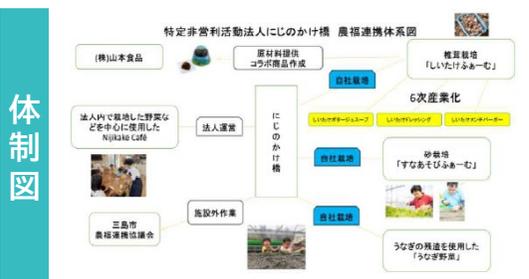
生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H25年

概要
主力商品
 (農作物)さつまいも、にんじん、しいたけ 等
 (加工品)椎茸ドレッシング、松茸ポタージュ 等
特徴的な取組
 林福連携、6次産業化、スマート農業



住所:静岡県三島市北田町7番地の29
 TEL:055-939-7526
 Mail:ryotasuzuki.nijikake@outlook.jp
 URL:https://nijinokakehashi.org/

きっかけ

H25年

農家から「人手不足で農業を手伝ってほしい」との相談があり、施設外就労として手伝いをしたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程の効率化や販売力の高い野菜等で収益性を確保し、月額平均工賃3万円を達成。
- 地元スーパー等での対面販売など、利用者が生産から販売まで一貫して関わることで、責任感と意欲を向上。
- 利用者の能力に応じて役割設定し、リーダーとしてのステップアップも推進。
- 言葉の壁や障害特性を乗り越えるため、視覚的な作業手順書を導入。

取組

地域を耕す

- 荒廃農地を活用し、近隣農家からの協力も得ながら、季節野菜や地元の伝統野菜を栽培して地域農業の維持・発展に貢献。
- JAや商工会、地元企業や行政など異業種と連携し、地域全体での農福連携推進体制を構築。
- 自社栽培の野菜などを使った Nijikake Café(にじかけカフェ)を運営し、利用者が接客や販売を担当することで地域との直接的な交流を推進。

未来を耕す

- 「農福連携を地域と未来の希望につなげる」ことを掲げ、持続可能な取組を展開。
- 収穫野菜を使用した無添加加工品の開発や、直売所・イベントでの販売活動など、6次産業化、も推進。
- 小中学校生徒を対象とした農業体験や職場見学受け入れなど、若い世代に福祉や多様性の理解拡大を促す活動をしており、未来の担い手づくりにも貢献。

成果

平均工賃月額	農業に携わる障害者数	農作物等売上高	農地面積
22,350円(R2) →30,052円(R6)	30人(R2) →75人(R6)	310万円(R2) →404万円(R6)	5.45a(R2) →7.45a(R6)

- 障害者だけでなく、高齢者、外国人、ひきこもり経験のある若者、子育て中の主婦など多様な人々が関わり共に働く場を創出し、誰もが自分らしく働ける職場づくりを推進。
- 農作業で培った勤労習慣や体力、コミュニケーション能力を評価され、3名の利用者が食品加工会社や地元スーパーなどへ就労。

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

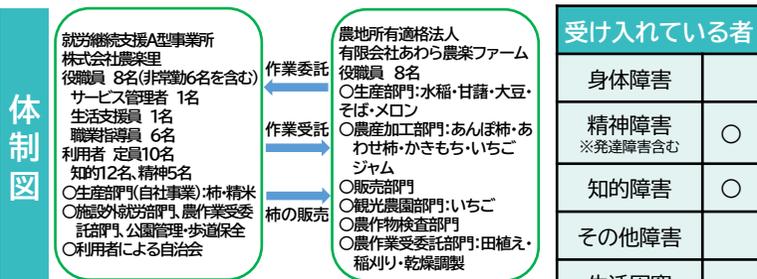
AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。水稻栽培や観光いちご農園等に取り組み、楽しく多様な農福連携を実現。



基本情報

設立: H25年 / 農福連携取組開始: H25年

概要
主力商品
 (農作物)米・大豆、甘藷、柿
 (加工品)いちごジャム、かきもち
特徴的な取組
 スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物



住所: 福井県あわら市山室72字長割山101番
 TEL: 0776-63-6317
 Mail: info@fukui-norari.jp
 URL: http://www.fukui-norari.jp/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ

H25年
 障害者に農業を通じて働く場を提供し、共に地域農業の担い手となることを目的に設立。

人を耕す

- 農作物の播種・定植、除草、収穫、乾燥調製、出荷、加工の作業を分解することで、知的障害者、精神障害者の17名が自社事業及び施設外就労で、100haを超えるほ場で農作業に従事。
- 講習を修了した利用者がロボット田植機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。
- 一人ひとりの特性、経験、技術、相性等を考慮し、作業内容、チーム編成を行うことで、利用者間の信頼関係を構築。

地域を耕す

- 農山漁村振興交付金を活用し、小口精米ユニットを導入。利用者が精米作業に従事し、首都圏、関西圏の障害者就労施設、外食事業者へ精米を販売。
- 県内外からの視察や田植・稲刈り体験、観光いちご農園等で交流人口が増加。
- 獣害対策等として、ほ場の畦畔、土手、農道等の除草作業を年4回実施し、中山間地の集落維持に貢献。

未来を耕す

- ドローン、ロボット田植機、アシスト付PFコンバイン、トラクター、米乾燥施設の温度管理にスマート農業を活用。
- 特別栽培農産物(米・メロン)の栽培、観光いちご園の暖房燃料は間伐材でのペレット材を使用し、環境にやさしい農業に取組み、GH評価で900点以上と高い評価。

平均賃金月額	売上高	交流人口	農地面積
71,306円(R2) →87,038円(R6)	642万円(R2) →2,145万円(R6)	1,409人(R2) →10,002人(R6)	74ha(R2) →105ha(R6)

成果

- AIやスマート農業による農福連携で、安全性が高く、操作が簡便で、精度の高い農作業が可能となり、農作物の生産性や品質の向上、収益UPに寄与。
- 完全週休二日制、夏季休暇、年末年始休暇制度等で勤務条件を改善。
- 県平均を大きく上回る12万円以上の月額賃金を実現した者も増加。
- 利用者は、チーム長、リーダー、一般就労へとステップアップし、5名が一般就労。
- あわら市ふるさと納税返礼品に農福連携商品として登録。利用者がデザインした段ボール箱で返礼品を送付する等、農福連携の普及啓発に尽力。

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、地域活性化に貢献。

福祉事業所

大阪府枚方市



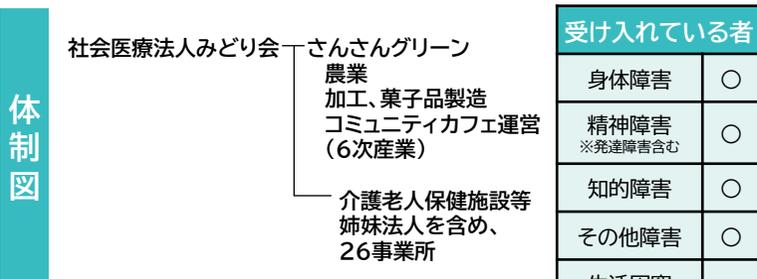
基本情報

設立:R6年 / 農福連携取組開始:H23年
 取得認証等:認定農業者(H27年)、ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品
 (農作物)宇治抹茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺茄子 米、京都レモン、ゆず

特徴的な取組
 環境保全型農業、自然栽培、ユニバーサル農園 等



住所:大阪府枚方市藤阪中町3-20
 TEL:072-807-3356
 Mail:33green.cc@gmail.com
 URL:https://syoujukai.org/welfare/sansangreen.html

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 <small>※発達障害含む</small>	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H23年

ろう者が手話で気軽に交流できる居場所として、廃園となった茶園で碾茶等の栽培をする前身の事業所を開所。2024年に元職員、利用者らで大阪へ拠点を移し、本事業所を開所。

取組

人を耕す

- 平均工賃は全国平均の約2倍。
- 盲ろう者など重複障害者なども在籍。高齢者には座ってできる作業、半身まひの者には片手でできる作業など、個々の特性に合わせた作業割振と支援を行い、全員が主体的に活躍できる環境を整備。
- ろう者のほか精神、知的、重複障害、認知症の高齢者など様々な人が助け合う風土を形成。

地域を耕す

- 山城北農業改良普及センターやJA京都やましろと連携し、京都えびいも、花菜、京都田辺茄子などの「京のブランド野菜」を生産。京都えびいもの苗を生産し、JAをとおして、新規就農者などの手に渡し、地域農家を支えている。
- 手摘み茶農家が減少する中で、毎年手摘み収穫を行い、宇治茶文化を維持・継承。地元茶農家への農業支援も実施。

未来を耕す

- スパイスメーカーと連携した「全国 鷹の爪軸取り選手権大会」の企画・開催や、市の自立支援協議会就労部会への参加などで、農福連携の情報発信を行う。
- 施設利用者である日本で唯一の盲ろうトライアスリート中田鈴子選手を支援し、国内外でスポーツを通じた農福連携の啓発活動を展開。

平均工賃月額	施設利用者数	売上高	農地面積
4.6万円(R6)	21人(R6)	936万円(R6)	1.3ha(R6) ※全て耕作放棄地を活用

成果

- 市外の手話通訳者研修会などに出講し、農福連携とは無縁の福祉関係者への啓蒙活動に取り組むことで、農福連携の認知拡大に寄与。
- 併設カフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を作る。5月の茶摘み体験をはじめえびいも、茄子の収穫体験、土曜日、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
- 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬の柚子を栽培し、ノウフクJAS認証を取得。皮まで安心して食べられる果実を使って大学やレストランと連携。レモネードの販売や柚子のホットソースの商品化など話題性のある取組を展開。
- 地元の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携。